



カトリック札幌司教区

札幌カリタス通信

July 2009 No.11



- カリタス家庭支援センター 5周年 -

「社会に開かれた教会として」

札幌カリタス最高顧問 ペトロ 地主 敏夫 司教

この度、札幌カリタスが10周年を迎えることとなりました。これまで戴きました皆様からの物心両面に亘るお力添えに心から感謝申し上げます。かつて教区ビジョンで取り上げられていた課題の中に社会に開かれた教会として社会福祉事業の充実がありましたが、ある分野において少しずつ実現していることは喜ばしいことです。しかしながら教区における社会福祉施設の経営は今大きな節目の時を迎えております。司祭、修道者がキリスト教精神で築き上げてきたものが、信徒あるいは一般関係者に引き継がれていかななくてはならない現実を目のあたりにしています。これは当教区だけではなく日本カトリック社会福祉施設のみならず教育施設も維持管理ならびに後継者の問題で頭を悩ませています。社会情勢は混沌とし少子高齢化問題も現実化し、それに対する国の法的制約が年々変化しその対応に追い付かない苦しみを重々身にしみ感じています。

この状況のなかでキリスト教精神に基づいた社会福祉事業の有り方が今後さらに大きな課題になっていくものと思えます。

教会が、現存する社会の中で神の愛と福音を実現する生きた活動を続けるため、信徒の皆様により広い分野での活躍を期待しつつ、他方、司祭・修道者はこの灯、光の心を育成し、励ましを与えて下さるよう願っています。

..... 目 次

報告	札幌カリタス10周年	-
	札幌カリタス運営委員会報告	-
行事	札幌教区のカトリック社会福祉のあり方2008の報告	-
	カリタス家庭支援センターの5年間	-
	社会福祉シンポジウムとカトリック福祉施設の集い開催案内	-
お知らせ	献金者名簿・活動内容	

札幌カリタス10周年に寄せて

「札幌カリタス」10周年を迎えて

運営委員長 場崎 洋 神父

札幌カリタスが発足して10年を迎えました。これまで皆様から賜りましたご厚情に心より感謝申し上げます。1994年の春、不肖私は務まるはずのない司教館事務局へ配属され日々司教様と事務職員の間で震えて過ごしておりました。同時にカトリック中央協議会の組織の中にあります社会福祉委員会・カリタスジャパン教区担当司祭も引き継ぐことになり年に数回会議のため上京していました。特にここでは四旬節キャンペーンに向けての目標や方策を検討してきましたが、教区としての社会福祉委員会という正式な組織はありませんでした。そのような中で障がい者グループや社会福祉に携わっている方々から資金援助ならびに支援体制について教区の対応の在り方に対して強い要望がありました。その中で94年の暮れ中央協議会カリタス・ジャパンから各教区事務局ヘルワンダ難民のための衣類緊急支援の呼び掛けがあり、委員会もないなか、ボランティアネットワークの方々などのご協力を頂きながら札幌の北11条教会ホールをお借りし分類作業でてんやわんやしていたことが懐かしく思い起こされます。続いて翌年1月には未曾有の大惨事となった阪神大震災が起こり、教区としての協力体制について問い合わせが殺到しました。こちらも大阪教区事務局と連絡をとりましたが、被災地としては混乱状態の大変な時で反対にお叱りを受けたぐらいでした。まもなく、大阪教区からボランティアの受け入れ態勢が可能となったため、札幌教区として緊急ボランティア派遣団を募り10名のボランティアを現地へ派遣することができました。同時に、教区内の社会福祉についての検討も必要となり、カリタスジャパン社会福祉委員会とボランティアネットワーク共催で「共に生きようフォーラム」(障がい者と共に手を携えて)を企画し、視覚、聴覚、肢体障がい者などの方々と共に、講演会、分かち合い、交流会などを催し、今後の社会福祉の在り方について様々な意見を伺うことができました。このような経過を辿りながら、教区としての社会福祉委員会のようなものが開設できればと言う機運が高まり1999年7月、念願の「札幌カリタス」が始動することができました。8月には小教区、修道会、諸団体などへ開設の趣旨内容と募金活動のお願いを開始しました。翌年3月末に起こった有珠山噴火では緊急災害募金の呼び掛けをカリタスジャパンを通して全教区へ援助支援の要請をお願いしました。札幌カリタス発足後のこともありその機能を果たすことができたことは大きな恵みとなりました。その後「共に生きようフォーラム」は発展的解消となり、「社会福祉シンポジウム」(主催：札幌カリタス、ボランティアネットワーク)の名称で引き継がれていきました。さらにそれと平行に起動したのが今年で創立5年を迎えた「カリタス家庭支援センター」です。年間の相談件数も800件近くになり、急速な時代変化の中で起きる家庭不和の問題を筆頭に様々な相談が寄せられ終結に至るまでの支援を続けております。

「札幌カリタス十周年を迎えて」

運営委員 加藤 鐵男神父

札幌教区の信徒お一人お一人にキリストの光によって芽生えた信仰の実りに支えられて、札幌カリタスもお陰様で十周年を迎えることが出来ましたことは、教区にとっての大きな喜びであり、神様の恵みの働きによるものと心から感謝致します。そもそもの発端は、身体の御不自由な方、心に病を持つ方とのボランティアのネットワークが、活発になり一つの連帯が形成されたことにあります。同時に未法人諸団体への資金援助のお願いもありました。教区として少しでも福音に根ざした草の根運動に誠意をもって応えていかなくてはならないと痛感しておりましたが、1999年、皆様のご理解のうちに札幌カリタスを発足することが出来ました。翌年には有珠山の爆発があり、被災民のために全国レベルで義援金のお願いをし、1000万円以上のご支援を頂いております。今後も、諸団体の資金援助ならびに緊急援助のために皆様へのご協力とお力添えをお願いしていかなくてはなりませんし、社会のニーズにあったサービスも提供していかなくてはならないと思います。

また、心のケアについての受け皿については、堤先生の全面的協力のもとにカリタス家庭支援センターを立ち上げることができました。時代の流れの中で家庭状況が大きく変化し、家庭内暴力、離婚、登校拒否、精神的病などで苦しんでいる人に対してキリストの光を分かち合う事のお手伝いが、出来ることを喜びに、励まされながら尽力して頂いています。

人が人として生きていくことが大変なこの社会の中で、支援が必要とされている人たちの要望に応えていくためには、皆様のお力添えとお祈りが大きな支えであることは言うまでもありません。福音に照らされた社会福祉運動推進と人間として大切な「いのち」のあり方について、私たち一人ひとりが真剣に考えていかなくてはならない問題だと痛感しています。

イエスに触れていただくために、人々が子ども達を連れてきたとき、弟子たちはこの人々を叱りましたが、イエスは、憤り弟子たちに言われました。「子ども達をわたしのところに来させなさい。妨げてはならない。神の国はこのような者たちのものである。はっきり言っておく。子どものように神の国を受け入れる人でなければ、決してそこに入ることはできない。」
そして、子ども達を抱き上げ、手を置いて祝福された（マルコ10：13-16）

子どもに象徴される小さくされた者へのイエスの温かい眼差しで札幌カリタスは、これからも援助を必要とされる人たちに、イエスと同じ態度で接していくことができる私達でありますようにと信徒の方々と願って行きたいと思います。札幌カリタスの活動が、必要とされない社会、神の国が実現して平和な日々の生活を送ることが出来ることを、日々祈って行きたいものだと思います。

「札幌カリタス」発足10周年を振り返って

運営委員 本間 清勝（山鼻教会）

1996年に札幌教区宣教司牧評議会が設立され、翌年に教区ビジョンと課題の検討、司教への答申という動きの中に、私も参加しておりました。

特に、教区ビジョンである「みんなで支え合い、みんなが伝え合う教区」というフレーズは北見地区での活動の中で実践してきたものだけに、感慨深いものがあります。

課題の一つである「社会と共に生きる教会」を具現化するために、宣司評から「札幌カリタス」の開設が提言され、口座開設・規約の検討・運営委員会の設置等がなされて7月に正式に発足し、札幌に転住した私も運営委員の一人として協力することになりました。

カリタス・ジャパンではカバーしきれない教区内の社会福祉活動への支援や関係諸団体との連携、社会福祉活動の推進など、札幌カリタスの果たすべき役割は大きいものがあります。その他、有珠山噴火や十勝沖地震などにみる緊急災害への対応など、地域に密着した活動や支援も可能になりました。

また、「札幌カリタスの日」設定以来、小教区や修道会、諸団体、個人やグループからの献金によるカリタス基金も絶えることなく続けられ、審査した諸団体への活動支援金として生かされていることは素晴らしいことだと思っています。まさに、「みんなで支えあう」という教区ビジョンが生かされ、広まっていることの証しです。

さらに、「社会福祉シンポジウム」の開催、「カトリック福祉施設の集い」の開催なども、ボランティア・ネットワークやカリタス家庭支援センターの協力を得ながら実施し、大きな成果を挙げて来ております。

各小教区でも「社会と共に生きる教会」として、それぞれの地域社会に開かれたものとなるよう努力され、活動している姿を見ていると、教区ビジョンの理念や札幌カリタスの目指すものに結びついているだけに、社会への証しの広がりを感じます。

運営委員として、「札幌カリタス」がより良く教区内の各地区で活用され、生かされるためには、各地区で福音に根ざした社会福祉活動をしているグループや団体を掘り起こすこと、気付くことが大切だと思っています。

今までの10年間を振り返ると札幌地区や周辺部が多いのではと感じます。もっと各地での活動に目を向ける必要があるように思います。この点で、各地区の宣司評の委員や小教区の信徒の皆さんのご協力をお願い出来れば幸いです。

「札幌カリタスの応援を頂いて」 運営委員 堤 邑江（カリタス家庭支援センター）
2003年11月30日の運営委員会は、次年度の事業として議題に「社会的ニーズに応える相談センターの開設」が提案され、全委員の賛同が得られたことで「カリタス家庭支援センター」の開設に繋がった印象深い会議となりました。

当時、私は元の職場「社会福祉法人聖母会天使病院」の経営が民間病院に移譲され、カトリック施設の機能を失くしたことから、「札幌教区の事業として、カトリックの価値観に基づく相談・支援活動を開始すること」を要請し、活動に無償で協力する意思があることを表明していました。会議では既に「ナイスの札幌教区ビジョン」に相談活動の構想があったことから、積極的に受け止められ、合わせてボランティア団体の共同の事務連絡場所とコピー機などの事務機器の共同利用を兼ねて一緒に使える場所が検討されました。司教様のご提案で、即、敷地内の空き家を委員全員が懐中電灯で照らしながら下見をしたものでした。結果的には、相

談・支援活動は社会のニーズに適しており、新年度からの設置が望ましいが、現時点では札幌カリタス（札幌教区）の事業とはせず、教区公認の団体として位置づけ、場所の提供、立ち上げに必要な費用等の支援をすることが決められました。相談員は無給。活動は無償のボランティアの支援を受けて行うことが認められました。場所はベネディクトハウスの一室に決まり、一軒家はより緊急性の高い薬物依存症の自助グループ「ダルク」が入居しました。その後、札幌教区司祭評議会・札幌地区宣教司牧評議会でも「カリタス家庭支援センター」の活動の必要性が確認され、積極的なご支援を頂きました。社会福祉活動を支援する「札幌カリタス」の応援を頂いて活動を続けておりますことを、感謝と共にご報告いたします。

活動団体の方々からの一言

「希望新たに」

鳥居 文子

札幌カリタス十周年おめでとうございます。かつて司教様が「道民五百万の救霊は宣教というより福音化による」と話され、「福音化とは社会の問題に触れていくこと、その内容をコミュニケーションへ」と語られ共感したのを思い出します。そして、自分の生活空間を守って保つてという程度のライフスタイルは個人主義でもなんでもないと・・・。

その励ましを受け、ボランティア・ネットワークを立ち上げてより二十年になりました。市民層も積極的に受け入れ、社会生活にビジョンをと問題提起する社会福祉シンポジウムを、毎年、札幌カリタス支援のもと実施させていただいて参りました。これは市民層から高く評価されてきたところです。ビジョンがなければ民は滅びるの言葉が浮かびます。

ボランティア・ネットワークは、遂に、今年の三月末をもって活動に終止符を打ったわけですが、個人的には種々なる活動は従来通り続行中です。

「変動する社会の中に市民権を得ることが福音宣教の使命」とレオ十三世教皇のお言葉です。新たな絆のうちに希望を見出していきたい!!!

「札幌カリタスと虹の会の10年」

視障者と共に歩む会（虹の会） 谷口 正

世界の経済不況のあおりを受けて、社会の弱者として各層で生活難に陥っている方が多いと思われまます。障がい者も経済的な弱者と云われる立場で、日常の活動を続けております。それらの方々への援助として、札幌カリタスのこの十年間果たしてきた役割は大きなものがあつたと痛感しています。視覚障がい者と関わりを持ってきた虹の会も、今年、発足して10年を迎えます。

この間を顧みますと、札幌カリタスからの多大な援助を受けて、視障者への手助けが出来たように思います。とりわけ虹の会は、視障者が必要とする情報を、点字と録音の二方向から、健全者が目にするものと同じレベルとスケールのものを直接届けているわけですが、常時活動を続けている関係から、高額な機器類（点字プリンターと録音関係機材）を常備しなければなりません。これらの購入に当たり、札幌カリタスからご援助を頂き、十分な活動の展開ができ、札幌カリタ



- 研修と親睦をこめた旅行 -

スの存在が無ければ、到底活動を続けられない状況にあります。札幌カリタスとは不即不離の関係にあり、財政的なバックアップにより視障者が必要としている情報を提供する活動を更に推進してまいりたい所存であります。

札幌カリタスの存在が、今後ますます大きくなって参ります時、教区内の多数の方々の、より深いご理解とご協力のもと、主の福音の精神が更なる発展となりますよう祈念しております。多くの支援が、札幌カリ

タスに寄せられますようお願いし、十周年の祝意と感謝の意を含めてご挨拶と致します。

「札幌カリタス発足10年に寄せて」

札幌マック施設長 住谷 健次郎

札幌カリタス様の発足10周年をお祝いいたしますと共に、これまでのご指導とご支援に心から感謝申し上げます。

札幌マックは、1982年に故 ロイ・ハイマー神父のご尽力により、アルコール・薬物を中心とする依存症者の回復・社会復帰支援の施設として札幌に設立され、その数年後から今日に至るまで、谷内武雄神父（現在、カトリック山鼻教会主任司祭）の指導の下、多くの著名な先生方にもご支援頂きながら活動を続けてまいりました。その間、札幌カリタス様はじめ、多くのカトリック教会、信者様から毎年にもわたるご支援を頂き、施設の改修工事、毛布、布団、カーペット、パソコンの購入等、沢山のご支援と、そしてご指導を頂いてまいりました。

お蔭様をもちまして5年前には、まだ日本では数少ない女性の依存症者のための施設を設立することができました。その活動実績は報道機関にも紹介されるようになり、活動域は北海道全域に及ぶようになって参りました。その活動の一つの節目として、本年11月にJCCA（カトリック依存症者のための委員会 委員長：



- 親睦のバーベキューパーティー -

谷大二司教）の全国大会を札幌で開催することになりました。開催にあたり資金不足を少々懸念しておりましたが、札幌カリタス様にご支援を頂き、不安を解消することが出来ました。そのご支援に心から感謝しております。

それから、この場をお借り致しまして、皆様方に、本年11月3日に北一条教会で開催されるJCCA 信仰セミナーと、4日に開催されるJCCA セミナーへの参加を呼びかけさせていただきます。

最後に、改めまして札幌カリタス様のこれまでのご指導とご支援に対する感謝と共に、今後のますますのご発展を祈念させていただき、札幌カリタス様の10周年のお祝いの言葉とさせていただきます。

「札幌カリタス10周年にむけて」

発達障がいを持つ人々とその家族を支援する会

NPO 法人 ぶどうの木 井戸めぐみ

私達“ぶどうの木”は平成18年8月4日に、発達障がいを持つ人の家族が中心となって設立した特定非営利活動法人（NPO）です。その目的は発達障がいを持つ人々とその家族を生涯に渡って支援することですが、その第一歩の事業として、幼児、学童を対象とした児童サービス事業と日中一時支援事業を開始しました。なるべく家庭に近い環境を準備し、不安や緊張を軽減すると共に、実際に家庭で生かせる療育を目指して一般の家屋を借りて事業を行っています。設立して初めての事業であり、事業所内外の（庭、階段手摺、棚、机や多くの備品、そして教材、教具・・・）すべての準備が必要でした。

紙芝居、絵カード、その他、幾種類もの教材を発達状況やその子どもの特徴に合わせて手作



遊具で遊ぶ子供たち

りしました。しかし、療育を行うにあたって欠かせない運動遊具や知育玩具を購入しなければなりません。それらは安全であり、また緻密な作りを必要としますので、高価な場合が少なくありません。

当団体はNPO法人であり、設立間もない時期に高価な遊具類の準備は大変困難でした。そのような事情を汲み取っていただき、札幌カリタスから援助金を頂けたことはとてもありがたく感謝に

たえません。幼少期に特に大切な感覚運動遊具の多くと、モンテッソリー教材を含む知育玩具を札幌カリタスからの援助金によって購入することができました。

事業開始のから3年目に入りましたが、経営が安定したとは言えない現状にあります。今後ご支援を宜しくお願い致します。

札幌カリタス10年の主な歩み

1998年12月	教区ビジョン「社会と共に生きる教会」の提言をうけ発足準備と口座開設
1999年7月20日	「札幌カリタス」発足
2000年1月29日	第一回援助審議会開催し6団体へ総額1,170,000円を援助決定
2000年4月3日	有珠山噴火被災民緊急援助の募金開始
2000年5月30日	地主司教から虻田町長崎町長に900万円の義援金を贈呈
2000年6月	第一号の札幌カリタス通信を発行
2000年7月1日	空席だった運営委員長に場崎洋神父が就任
2000年11月18日	「共に生きようフォーラム ～障がい者の集い～」開催（於：花川マリア院）
2000年12月18日	有珠山噴火被災民第2次義援金300万円（総額1,200万円）を贈呈
2001年3月9日	援助審議会開催し、7団体へ総額1,190,500円を援助決定
2001年5月15・16日	社会福祉シンポジウム「流れを変えよう、人間の世紀」を開催（於：札幌第一ホテル）
2002年4月25日	援助審議会開催し、7団体へ総額1,460,000円を援助決定
2002年5月11・12日	社会福祉シンポジウム「流れを変えよう、人間の世紀 Part2」を開催（於：北見教会）
2002年7月1日	運営委員長に永田淑子シスターが就任
2003年2月	援助審議会開催し、8団体へ総額1,387,020円を援助決定
2003年10月6日	十勝沖地震被災者への義援金を募る

2003年10月18日	社会福祉シンポジウム「流れを変えよう、人間の世紀 Part3」を開催（於：カトリック札幌）
2004年 2月	援助審議会開催し、8団体へ総額2,262,613円を援助決定
2004年 3月10日	総額320万円を釧路市、浦河町、静内町へ送金
2004年 5月10日	カリタス家庭支援センターが聖ベネディクトハウス 1階に開所
2004年 7月 1日	運営委員長に場崎洋神父が就任
2004年 7月 2日	社会福祉シンポジウム「流れを変えよう、人間の世紀 Part4」を開催 (於：北海道環境センター)
2004年12月 6日	第1回カトリック社会福祉施設のあり方について考える集い開催（於：聖ベネディクトハウス）
2005年 2月28日	援助審議会開催し、10団体へ総額2,295,675円を援助決定
2005年 6月20日	第2回カトリック社会福祉施設のあり方について考える集い開催（於：聖ベネディクトハウス）
2005年 7月 5日	社会福祉シンポジウム「生命特許は許されるのか」開催（於：札幌働く人の家）
2006年 1月 9日	第1回精神障がい者をもつ家族の集い開催（於：聖ベネディクトハウス）
2006年 2月28日	援助審議会開催し、8団体へ総額2,114,800円を援助決定
2006年 5月27日	第2回精神障がい者をもつ家族の集い開催（於：聖ベネディクトハウス）
2006年11月18日	社会福祉シンポジウム「精神障がいと生きる」開催（於：北一条教会聖堂）
2007年 2月27日	援助審議会開催し、9団体へ総額1,734,629円を援助決定
2007年11月 4・5日	社会福祉シンポジウム（カリタスジャパン共催）を開催（於：北一条教会聖堂）
2007年 3月 8日	カトリック社会福祉施設のあり方についてのアンケート調査を実施
2008年 2月26日	援助審議会開催、9団体へ総額1,720,844円を援助決定
2008年 4月19日	社会福祉シンポジウム開催（於：かでの2・7）
2008年10月27日	第3回カトリック社会福祉施設のあり方について考える集い開催
2009年 2月24日	援助審議会開催、8団体へ総額1,953,900円を援助決定

札幌カリタス運営委員会報告

- 札幌カリタス10年 = 神のみわざ -

札幌カリタスは、1999年7月20日に「社会と共に生きる教会」を目標に発足してから、今年で10周年を迎えました。これまでの皆様のご支援とご協力に心より感謝申し上げます。今後とも、カトリックの精神を生かし、札幌教区内の弱い立場の人々を大切にして、共に歩む活動を続けてまいりたいと思います。これからもご支援とご協力宜しくお願いします。

1. 札幌カリタス一般会計2008年度決算（2008年4月1日～2009年3月31日）単位：円

収入の部			支出の部		
科目	予算額	決算額	科目	予算額	決算額
寄付金収入	2,200,000	2,254,679	諸団体援助費支出	1,720,844	1,720,844
利息受取収入	1,000	13,234	広報費支出	170,000	89,663
積立金取崩収入	0	0	行事費支出	160,000	23,000
			旅費交通費支出	10,000	0
			事務経費支出	70,000	67,187
			援助積立金繰入支出	0	9,848
			予備費	200,000	0
計	2,201,000	2,267,913	計	2,330,844	1,910,542
前年度繰越金	2,794,686	2,794,686	次年度繰越金	2,664,842	3,152,057
合計	4,995,686	5,062,599	合計	4,995,686	5,062,599

2. 札幌カリタス2009年度事業計画

- 5月 2009年度援助金の交付
講演交流会（札幌地区宣司評家庭部会と共催）
- 6月 運営委員会
- 7月 札幌カリタスの日献金のお願い発送（文書、ポスター etc.）
札幌カリタス通信（No.11）発行
- 8月 社会福祉シンポジウム開催（8日 於：藤女子大学北16条校舎7階）
札幌カリタスの日（23日）
- 10月 カトリック福祉施設の集い
講演交流会（札幌地区宣司評家庭部会と共催）
- 12月 2010年度援助金申請書発送、申込受付開始（1日）
- 1月 2010年度援助金申請〆切（31日）
- 2月 運営委員会、援助審査会

3. 札幌カリタス一般会計2009年度予算（2009年4月1日～2010年3月31日）単位：円

収入の部			支出の部		
科目	2009年度	2008年度	科目	2009年度	2008年度
寄付金収入	2,200,000	2,200,000	諸団体援助費支出	1,953,900	1,720,844
利息受取収入	1,000	1,000	広報費支出	170,000	170,000
積立金取崩収入	0	0	行事費支出	160,000	160,000
			旅費交通費支出	10,000	10,000
			事務経費支出	70,000	70,000
			援助積立金繰入支出	0	0
			予備費	200,000	200,000
計	2,201,000	2,201,000	計	2,563,900	2,330,844
前年度繰越金	3,152,057	2,794,686	次年度繰越金	2,789,157	2,664,842
合計	5,353,057	4,995,686	合計	5,353,057	4,995,686

札幌カリタスの支出は、札幌教区内の社会福祉活動を行っている団体への援助が大きな割合（2008年度の収入に対する比率は76.3%）を占めています。新年度の予算は、前年度の皆様寄せられた寄付金をもとに計上しております。今後も引き続き諸団体の活動を支援していきたいと思っております。皆様のご支援を宜しくお願いします。

4. 2009年度援助金交付決定額

2009年度の審査結果は次の通りです。

NPO 法人 ニムピン	300,000円	NPO 法人 北海道ダルク	300,000円
NPO 法人 札幌マック	300,000円	NP 法人 ぶどうの木	201,620円
NPO 法人 札幌マック女性共同作業所	182,280円	虹の会	300,000円
札幌 JOC	70,000円	NPO 法人 寧楽共働学舎	300,000円

申請総額 = 2,033,900円

援助総額 = 1,953,900円

5. 援助金交付内容

ニムピン...自立支援法に照らした施設拡充のための備品整備への援助を行いました。
札幌マック...JCCA（日本カトリック依存症者のための委員会）定例会と研修会が札幌で開催されることになり、その開催費用のために援助しました。

札幌マック女性共同作業所...事務処理用のコピー機交換費用のために援助しました。
札幌 JOC...日本 JOC60周年記念誌作成と札幌働く人の家に集う人々の利用に供するパソコンソフトの購入費用のために援助しました。

北海道ダルク...薬物乱用防止のための回復プログラムの啓蒙活動であるダルクフォーラムの開催費用のために援助しました。

ぶどうの木...発達障がいをもつ子どもたちの発達支援のための知育玩具と遊具購入費用に援助しました。

虹の会...交換が必要となった点字プリンター購入費用のために援助しました。

寧楽共働学舎...自給自足ためと自家製パンを販売するための製パン用高速ガスオーブンの購入費用に援助しました。

6. 援助申請方法

毎年12月1日から申請書類を配布します。巻末の事務局へお問合せ下さい。

行事報告

(1)カトリック社会福祉施設の今後のあり方を考える集い

「カトリック精神を生かした施設づくり=その実践=」をテーマにして、2008年10月29日(月)に社会福祉関係施設から18名が参加し、聖ベネディクトハウスにおいてパネルディスカッションを開催。

午前中は、実際に教職員教育を行っている実体験のもとに、藤学園理事長の永田淑子シスターが「人間の尊厳～このすばらしい存在～」と題して、基調講演を行った。

(抜粋).....人と他の動物との違い、人間の根源的な驚きと問い、聖書における人間観、人間の尊厳、与えられた人生、他との関係に生きる存在である人間、意味あるものとするための探求をする存在、死を考える存在、人間の神秘、人間の尊厳と人権の尊重、人間のいのちの尊厳などについて、具体的な事例を交えてキリスト教(カトリック)的人間観「愛」について語られ、キリスト教の中心は、「ナザレのイエスが、神から使わされた救い主であるということ。この救い主イエスが、全人類の罪を贖うために十字架で苦しみを受けて命をささげたこと。このイエスを父である神が復活させて、まことの神の子であることを証明したこと。私たち人間は、誰でも悔い改めて神の子となり、愛に生きるように招かれていること。イエスによって、私たちに永遠の生命(まことの命)が与えられること。」であり、神は、人間を愛ゆえに創造した。私たちに、この愛に応える使命がある。イエスを通して示された神の愛を信じ、自らの存在意義に気づいて、神の愛に応えることが大切なことであり、今も、イエスは人間と神を取り次いでいる。.....

午後からは、加藤鐵男神父の進行で、司祭の立場から久保寺緑郎神父(北一条主任、元雪の聖母園園長)、信徒の立場から本間清勝氏(元光の苑理事)、修道者の立場から Sr.チェリ



- パネルディスカッションの様子 -

ナ（月形藤の園パストラルケアワーカー）支援機関の立場から堤邑江氏（加夕家庭支援センター所長）が、カトリック精神を生かした施設づくりの考え方やその方法について、それぞれの実践経験を交えながら意見を述べていただいた。

「愛する者たち、互いに愛し合しましょう。愛は神から出るもので、愛する者は皆、神から生まれ、神を知っているからです。愛することのない者は神を知りません。神は愛だからです。」（ヨハネの第一の手紙4章7～8節）

（2）カリタス家庭支援センター開設5周年（冒頭の写真をご参照下さい）

2003年の準備期間を経て、2004年2月27日の札幌カリタス運営委員会にて、「カリタス家庭支援センター」の規約、事業計画、予算が承認されました。4月18日にカリタス家庭支援センター設立総会が開かれ、5月10日に開所式が聖ベネディクトハウスで行われ、5月30日に開設記念講演会（於：北一条教会）が、当時天使病院長だった手戸一郎氏を招き「私にとって、すばらしい人とは」と題して開催されました。2005年には、相談件数の増加と、後継者育成のために専門相談員が2名体制となり、その間、皆様からの支援や、年2回の支援コンサートなどのチャリティー活動に支えられ今日に至っています。

そして、2009年5月19日に開設5周年を祝う地主司教司式による感謝ミサと、谷内武雄神父（山鼻教会主任司祭）の記念講演「遣わされた者たちよ」茶話会を開催できたことを皆様に感謝いたします。

これからの行事案内

（1）社会福祉シンポジウム開催（参加費は無料です。お気軽にご参加下さい）

内容 社会福祉団体パネル展（展示即売品あり）と桑山紀彦医師の映画上映

日時 2009年8月8日（土）10:00～16:00

会場 藤女子大学北16条校舎7階（札幌市北区北16条西2丁目）

参加団体（6/18現在）

NPO ニムピン、NPO 寧楽共働学舎、みなずき会、NPO 札幌マック・札幌マック女性共同作業所、NPO 北海道ダルク、（社福）雪の聖母園、（社福）清水沢学園、（社福）月形藤の園、札幌働く人の家・札幌 JOC、カトリック労働者連盟、NPO ぶどうの木、NPO ちえりす、キャンドルハウステレジア、（社福）うみのほし学園、虹の会、聴覚障がい者の会、ボーイスカウト札幌26団、カリタス家庭支援センター桑山紀彦医師の映画「地球のステージ ありがとうの物語」（100分）

1 回目上映 = 10:30～

2 回目上映 = 13:30～

展示即売品（6/18現在の予定です）

雪の聖母園（まんまる納豆、EM ボカシ、リサイクル石鹸、手漉きハガキ、天候次第では有機野菜も・・・） 共働学舎（土窯パン、食パン、ジャム、野菜、とうもろこし人形、手作り石鹸、クッキー等） 清水沢学園（さおり織りの工芸品）

(2) カトリック福祉施設の集い」開催案内

旧名を「カトリック社会福祉施設の今後のあり方を考える集い」と言いましたが、今回から短く「カトリック福祉施設の集い」と改めました。カトリック関係の福祉施設の設置者・園長など管理的立場にある人々の集いで、福祉施設のおかれている様々な諸問題を共に考えていきます。

日時 10月19日(月) 10:00～15:30 場所 聖ベネディクトハウス

詳細が決まり次第、関係各位には改めてご連絡いたします。

活動内容

札幌教区内における社会福祉活動の推進

福音に根ざした社会福祉団体や社会福祉活動への資金援助

援助資金のための募金活動 関係諸団体相互の情報交流

献金者名簿(2008.4～2009.3) 敬称略 心より感謝申し上げます

教会

岩見沢、恵庭、江別、北1条、北11条、北11条マリア会、北26条、北広島、倶知安、小野幌、新田、住ノ江信徒会、千歳、月寒、手稲、富岡、花川、真駒内、円山、円山福祉部、山鼻、旭川5条、旭川6条、大町、枝幸、神居、土別、砂川、滝川、美唄、美唄信徒会、留萌、稚内、当別、宮前町、八雲、湯川、帯広、釧路、柏林台、苫小牧、静内、伊達、登別、室蘭、苫小牧地区女性大会、北見地区、美幌、長崎教区評議会

修道会、在俗会

殉教者聖ゲオルギオのフランシスコ修道会、マリアの宣教者フランシスコ修道会第一修道院、北広島修道院、ベネディクト修道院本部・室蘭修道院、十勝カルメル会、伊達カルメル会、トラピスト修道院、トラピスチヌ修道院、聖心会、シャルトル函館修道院、マリア会光星修道院、ヴィアンネ会旭川修道院本部、聖マリア在俗会札幌地区

団体、個人、外

伊達雅子、伊藤敦子、佐藤栄子、清水 毅、匿名希望者

編集後記

皆様のご支援とご協力により10年を迎え、今後も、皆様の励ましを支えに、神様のみむねにそった活動を邁進する所存です。今後とも皆様のご支援・ご協力をよろしくお願い致します。

[札幌カリタスへの献金 振込口座] 郵便振替口座番号 02740-8-35329
口座名義 札幌カリタス

宗教法人カトリック札幌司教区

札幌カリタス

〒060-0031 札幌市中央区北1条東6丁目10 カトリック札幌司教館

Tel 011-241-2785 Fax 011-221-3668

E-mail officecsd@csd.or.jp http://www.csd.or.jp/charitas/